

TRICOLOR

7 チーム中第 7 位

大会・公式戦結果

Top

【県リーグ(KSL-1)】

第 10 節	
vs 日立小田原	4-1
最終節	
vs 横浜 GSFC コブラ	4-0

Junior Youth

【横浜市長旗杯神奈川県予選】

2 回戦	
vs 神奈川朝鮮	0-0(PK2-4)

【県 U-15 リーグ】

vs 逗葉 JY	3-5
----------	-----

小 6

【横浜国際チビッ子サッカー大会】

vs いずみ野 SC	3-0
vs 平戸 FC	6-1
vs コミュニティ FC	0-0
vs FC 南台	2-3
vs 横浜中央 YMCA	5-0

7 チーム中 2 位以上確定で決勝 T 進出

小 5

【潮風カップ】

グループリーグ	
vs FC 西柴	2-2
vs 岬陽 SC	2-0

FC 西柴に PK 勝ちで決勝戦へ

決勝

vs 崇善 FC	1-0(延長戦)
----------	----------

小 4

【横浜国際チビッ子サッカー大会】

< ブラン >	
vs EMSC	6-0
vs 並木 SC-B	6-0
vs ゆりのき	9-0
vs 黒滝 SC	1-0
vs 六浦毎日 SS	8-0

6 チーム中第 1 位で決勝 T 進出

< ブルー >

vs 小山台 SC	0-4
vs すみれ SC-A	0-9
vs FC 南台	0-5
vs エストレーラ FC-A	0-9
vs もえぎ野 FC	1-2
vs HIP.SC	0-1

小 2

【横浜国際チビッ子サッカー大会】

< ブラン >	
vs FC ソレイユ	0-5
vs サザン FC	0-5
vs 藤の木 SC	1-4
vs 白根 SC	1-8
vs 戸塚 FC	0-8

6 チーム中第 6 位

< ブルー >

vs FC 根岸 A	0-5
vs FC 和泉	0-3
vs 日限山 FC	0-14
vs HIP.SC	0-2
vs 柏尾 SC	1-0
vs 本牧少年 SC	1-0

7 チーム中第 6 位

Papas Rec

【県シニアリーグ四十雀 4 部】

vs 足柄上四十雀	2-2
vs 大和四十雀	1-2

Papas Comp

【県シニアリーグ四十雀 2 部】

vs 高麗	3-0
vs 小田原四十雀	1-4

今、グラウンドでは・・・

Top

平成 19 年度最終成績

12 チーム中第 7 位

全 11 試合/4 勝 5 敗 2 分/勝点 14/得点 23/失点 25/得失点差 -2

今シーズンは、「残留」へ過去最大とも言えるほどの危機でしたが、夏場からの関東大学リーグ、関東社会人リーグのチームなどの練習試合などでチーム強化を図ることができたおかげで、背水の陣で臨んだラスト3試合に全勝し、最終的に7位でシーズンを終えることができました。結果的には残留争いをしてしまいましたが、現在の県 1 部リーグはどのチームもさほど実力差は無く拮抗していると思っています。それだけに、来シーズンは優勝を狙っていききたいところですが、そのために何が必要なのか？ただ練習量やフォーメーションなどを考えていくよりも、まず一人一人が「サッカー」というスポーツをもっと「知る」必要があるのではないかと思います。まずどこを目指して攻撃するのか、これは

誰でもわかることですが、試合中など見ていると何の意図もなくただ後ろにボールを下げてしまったりするケースがよくあります。なぜ?あくまで目的はゴールなのに!やはりサッカーには基本となる技術、そして個人戦術、グループ戦術、チーム戦術があります。まず「原則」を一人一人が理解し、プレーする必要があります。それをふまえた上で個々のアイデアを引き出し、共通理解を深め、完成度を少しずつ高めていき、結果的に来シーズンは勝てるチームへと成長していきたいと思っています!(樋口 圭太)

Youth

毎年9月と10月は、学校のテスト、修学旅行、文化祭と行事が多く、そこに2学期制と3学期制とのタイミングのずれもあり、全員が揃ってトレーニングできる日が皆無といっている状態です。

そんな中でも何とか試合を組んでみたのですが、個々のレベルが上がっていることがはっきりと見て取れたことはうれしい収穫です。もちろんまだまだ甘い部分は多分にあるのですが、大敗したU-17リーグの頃が嘘のようです。

トレーニングの成果の賜物ではありますが、それ以前に一人ひとりの意識がしっかりとしてきたことが大きな要因でしょう。「誰かがやるのではなく、自分が行く」ということ。そういった気持ちが芽生えてきているようです。この気持ちを忘れずに、他人に遠慮することなく積極的な気持ちでトレーニングに励んでいきましょう。

(内田 佳彦)

Junior Youth

自分の技術に対して危機感をもっている選手がどのくらいいるでしょうか?私自身としては、この年代でボールを扱うことにストレスを感じなくなるまでに成長して、次のユース年代に進んで行って欲しいと思っています。しかし現状はまだまだといったところで、プレッシャーのない中ですら平気でミスをする場面を多く目にします。もちろんミスは起こるものですが、その時に自分の未熟さを感じて、単純に「もっと上手になりたい!」と思える感覚が持てるかどうかが重要で、「ただ何となく」で成長は期待できません。技術の習得には時間がかかるものです。だからこそ、少しでも早く選手自身に気づいて欲しいと思います。何より、自分の思いどおりにボールが扱えるようになったら、もっともっとサッカーが楽しくなるはずですし、観ている人をも魅了する

ことができるでしょう。(二木 昭)

小 6

【国際チビッ子まだまだ続く】

かながわクラブはブロック全試合を消化し決勝トーナメント進出を決めました。(2位以上確定。)内田理事長が応援しに来てくださった大会3日目は内田理事長伝説(皆さん知ってますか?(笑))を屈返せず1分1敗となってしまいました。。その結果、最終戦を残し引分以下で予選リーグ敗退という状況になってしまいました。最終日はプレッシャーのかかった中、見事5-0という大差で勝利し、全員が大仕事をやってのけました。選手の充実した顔、試合中での調整力等、試合毎に成長が見られとても有意義なグループリーグでした。余談ですが、最終戦後、誰かが「丸山コーチが来なかったから先週は勝てなかったんだよ!!」と言い出し、そういえばと思い返してみると...本当に丸山コーチが来た試合は全勝でした。ここで内田コーチとは反対の丸山伝説が始まりました!!(笑)これからの伝説に注目しておいて下さい!!(笑)

【感謝の気持ち】

公式戦を通して何故サッカーの試合が出来るかということ伝えてきました。家族の応援・理解があり、仲間がいて、試合相手がいて、大会を運営する人たちがいて、会場提供チームがいて、朝から夕方まで本部を運営するお母さんたちがいて、審判してくれる人たちがいて...といろんな人の協力・存在があって試合が出来るのだと伝えてきました。個人差もありますが、帰りに本部に挨拶をしたり、すれ違う保護者の方に挨拶をしたりと少しずつ変化が見られ、意識が変わってきました。コーチに言われるがまま、チーム揃って整列をしてただやられている、又はただするべきもの的な感じですので、自発的に感謝の気持ちを感じてするのは、行動の本質が変わってきます。子供たちのこのような行動も見ていただけるとサッカー以外での成長を感じることが出来るのではないかと思います。

【応援ありがとうございました & 応援お願いします!!】

保護者の方々の心強い応援で選手たちは持っている力を発揮できたと思います。

日頃からお願ひしている「出来たら褒める。失敗したら励ます」が、浸透していた感じも感じました。決勝トーナメントの会場では外から指示を出したり、子供を罵倒する保護者の方々もいる

かもしれません。また、会場もいつもと違う雰囲気となるのが予想されます。しかし、皆様には子供たちが持っている力を発揮できる様に、これまで通り更なる応援をして頂けたら嬉しく思います。(益子 伸孝)

小 5

私事ですが、先週戸塚スポーツセンターのフットサルの大会に誘われて地元の友人たちとチームを組んで参加しました。このときばかりは選手の立場だったので自ら果敢にシュートを放ったり体を張ってディフェンスしたりと久々に燃えました!!残念ながら得失点差で2位という結果になり久々にとても悔しい思いをしました。

【招待試合の感想・選抜メンバーについて】

先週の日曜日に5年生の中に選抜チームを組んで招待試合に行ってきました。初めて選抜チームを組み、私も久しぶりの監督を務め私も選手たちも正直ドキドキ物でした...結果的には優勝という最高の形でしたが、内容的には正直満足はしていません。「決める所で決めきれない」「ディフェンスをするときに一発で足を出してしまう」など課題が見えてきました。子供たちには他の市のチームと試合をするいい機会だったとおもいます。

この選抜チームは、今回限りのチームなので選ばれた選手は、次に選抜チームを組むときにはメンバーに入れるようにがんばって練習しましょう。今回選ばれなかった選手は次選メンバーに入れるよう頑張る練習しましょう。空いた時間に少しでもボールに触れるだけでだいぶ効果はありますよ!!

【用具について】

最近、練習後に忘れ物をしている選手が多くなっています。みんなの用具にはすべて自分の名前は書いてありますか?今一度確認してみましょう。書いてない人はすぐに名前を書きましょう!!用具を大切にするのは良い選手になる為の条件のひとつですよ。(丸山 祐人)

小 4

【秋のリーグ戦を終えて】

この原稿を書いている段階では決勝トーナメントの予定が決まっていない中途半端な状況ですが、とりあえず予選リーグを振り返ってみたいと思います。

このリーグ戦に臨むに際してテーマとして掲

げたことは「相手のボールを奪うこと」、具体的には(1)パスのインターセプトを狙う、相手にボールが渡ったら(2)ボールを止める瞬間を狙う、相手にボールをコントロールされたら(3)相手を振り向かせない、相手に振り向かれたら(4)簡単に飛び込まずに時間をかけて体を入れてとること。そして次に「徹底的に個人の技術に拘ってみること」の二点でした。数字的に見たら、ブルーは0勝6敗(グループ7位)、ブランは5勝0敗(グループ1位)ということですから、これらのテーマに関する達成度に関しては誰もが推して知るべしと思われたかもしれません。

しかし、 に関してはさすがにブランの方がポジションに対する意識が高かったせいか、インターセプトを狙ったり、相手がボールを止める瞬間を狙ったり、相手を振り向かせずに時間をかけて守備をしたりということが何人かはできていました。

一方ブルーに関しては、インターセプトを狙うというよりは、全員が真面目に一生懸命にボールを追いかけたという印象です。やはりボール保持者にある程度のプレッシャーがかかっていると(パスのコースが限定されないと)、インターセプトを狙うのは非常に難しいことです。それでも愚直なまでにボールを追いかけて続けました。内田コーチのアドバイスで、「ボールを奪われたら、まずは大至急自分のポジションまで戻る」ということがありましたが、ポジションの意識すらあまりないブルーの現段階では、まずはボールを追いかける意識があることでよしとしましょう。

に関しては、ブルーの方が徹底していたように思います。もちろん組織としての練習もしていませんし、パスの意識もそれほどあるわけではありませんから、ボールを持ったら、自分の力を信じて個人で突破していくしかありません。もちろん、上手な子に頼るわけにもいきません。全て自分の責任でプレーするしかない状況に追い込まれたのです。必然的に一人一人が自己の技術で勝負せざるを得なかったわけです。

それに対してブランの方はというと、多少パスの意識があるせいか、安易に、無責任にボールを放すプレーが目につきました。パスは受け手にきちんとわたってこそパスと言えるのです。相手の寄せが速くなると、ついボールを蹴ってしまうというのでは、ボールのみならず、せっかく練習してきた相手をかかわすことを試す機会をも失うことになります。決勝トーナメントに向けても、付け焼刃的にパスを練習して臨むことはしませ

ん。それよりもこれまで練習してきた、自分たちが得意としている個人の技術で勝負するというスタイルを崩さずに臨みたいと思っています。安易な、そして無責任な、なんちゃってパスがなくなることを信じています。

【収穫は？】

チーム分けに際して、取って可能性を信じて(伸びることを期待して)という要素を外しました。それは、子どもたちの誰もが伸びる可能性を持っているからという理由でした。それでは、結果として子どもたちはどのように成長してくれたのでしょうか。これは身近にいらっしゃるお父様やお母様方が一番良くわかることだと思いますが、私なりに気づいたことを書いてみます。

ブルーに関しては、数字的には全く完膚なきまでにやられたという印象で、得るものなど何もないと、実際に試合を見ていない人たちは考えることでしょう。しかし、少しでも試合を見た人なら、子どもたちの一生懸命さは伝わりますし、最後まで自分達の練習してきたことをやり抜こうとする姿勢は評価できると思います。もちろん試合に勝つことは大切なことですが、相手のことは考えずに、自分達の練習してきたことがどれくらい試合の中で発揮できるのかを確認しようと臨んだはずですから。そして最終日は待望の得点も記録し、全員がそれなりに手ごたえをつかんで終えることできたのではないのでしょうか。

何点取られても...、負けてばかりいても...、一点も取れなくても...、悔しいことばかりでも...、それでも3日間、一試合も休まずに来てくれたことは立派なことです。子どもなら、どうせ負ける試合なら行ってもつまらないから休もうと考えることは自然だと思います。しかし、辛いことがあるとすぐに逃げ出すことからは何も生まれません。目の前の辛さに対峙して、たとえ乗り越えられなかったとしてもそれを乗り越える努力をしつつ、悔し涙を流すことが必ず次のステップへのエネルギーになります。その際に、大人の役割は決して辛さという壁を壊してあげるのではなく、壁を乗り越えようと努力する子どもたちのお尻を押してあげることなのではないのでしょうか。物事に真剣に取り組む姿勢がなければ、そして向上心がなければ、悔しい気持ちなど生まれないのも事実です。

とはいえ、どのチームに対しても点数の差ほど実力の差があるとは思われません。一人一人の技術的な側面だけで言うと勝っている部分もあったはずですが、それでも試合には負けたわけ

ですから、負けた悔しさをエネルギーに変えて、個々に「蹴ること・止めること・運ぶこと」もっと正確に、そしてもっと速くできるように努力しましょう。

さてブランに関してですが、個々の技術はそここのレベルにあると思います。しかし、様々なチームと戦う中で、まだまだダブルのスピードでかなわない選手、シュートの正確さや強さでかなわない選手、ヘディングでかなわない選手など肌で感じたはずですが、ということは君たちもまだまだ上手になれるはずですが、井の中の蛙にならないようにさらに頑張りましょう。

また、最初にパス有きではなく、個人の技術を備えたいという選択肢もあるということを理解して欲しいところです。パスへの意識が出てくるとパスを出すことが楽しくて仕方がないし、パスを多用すると楽で仕方がないという時期を迎えます。しかし、パスしかできない(パスしづらい)選手は相手にとって何も怖くありません。パスをすることもあるし、個人で突破もできるという両面性を試合の中で、相手の出方を見ながら柔軟に発揮していくことが当面の課題と言えるでしょう。

ブランでは最終日に本部(幹事チームのスタッフや親御さんたち)に全員で挨拶に行きたいと言ってくれた選手がいました。サッカーが上手なだけでなく、周囲の多くの人たちに支えられてサッカーができることに感謝する気持ちが出てきたことに、ちよっぴり人間的な成長が見られ、とても嬉しく思いました。

最後になりましたが、いつものことながら、審判資格をお持ちのお父様方には大変お世話になりました。1日に3試合などというハードスケジュールをこなしていただいたこともあり、本当にお疲れ様でした。お蔭さまで指導者としては子どもたちのケアに専念させていただくことができました。また、朝早くからのお弁当作りや引率のお手伝い、暖かい応援、体調管理など、家族の皆様方のご協力にも感謝いたします。こうした皆様方の支えがあって、子どもたちはまた少し成長していくのです。そしてまだまだ成長する可能性は無限に子どもたちの中には秘められているというのを信じてください。これからも引き続き、よろしくお願いします。(佐藤 敏明)

小 3

【考えるサッカーへの転換点】

今、子供たちに話しているのは、ボールを持っている人から離れましょう、そして味方と同

<http://calendar.ultra-soccer.com/s/>

[メーリングリスト]

Papas ではメーリングリスト(以下、MLと書きます。)が重要な連絡手段になっており、4グループに分けて運用しています。メールの件名の冒頭の言葉で区別がつかます。

[Papas]...Papas 全員に連絡するための ML。

[PapasRec]...レックに参加者向けの ML。

[PapasComp]...コンペに参加者向けの ML。

[Over40]...レックとコンペの両方に連絡するための ML。横浜市サッカー協会シニア委員会の主催する試合などの連絡に使っています。

アドレスの変更や登録は？

登録したいアドレスがあれば、幾つでも結構です。お申し出ください。なお、アドレス変更の場合には、必ず削除するアドレスも合わせて送ってください。

登録・変更の依頼先は？

登録・変更などの場合は、

Papas-owner@yahoo.com宛てに送ってください。

出欠確認の時は回答だけに！

Papas では、試合の前には出欠確認をメールで行っております。その回答の際には、返信ボタンで返信し(携帯では「引用返信」で)、回答に不用な文字を全部削除してください。この方法ですと携帯からでも全文を入力しないで返信文が作成できます。集計するに際しても必要な文字だけのメールなので大変読みやすいのです。ご協力を。

届かないときがあるのですが...

インターネットメールにはどうしても不確実性が伴います。不達の原因の多くは、通信の混雑だと思えますが、出来るだけ確実に受け取るためには、ご自分の携帯電話だけではなく、自宅や職場、ご家族の携帯を登録することをお奨めします。また、一度配信エラーが発生すると自動的に配信停止となります。その際、Yahoo! から配信停止を解除することを促すメールが届きますので、その指示に従って、ご自身で配信停止を解除してください。配信停止を解除するのはご自身だけですのでよろしく願います。

(茅野 英一)

Mistral

先月、「FORMULA1 日本グランプリレース」を観戦しに、富士スピードウェイに行ってきました。天候はあいにくの雨。小降りになると霧。しかも寒い。おまけに、朝早かったので眠い。

コースは、テレビで見るより、高低差があって、高速ストレートの次のカーブは下がっていたり、その後は上りだったり、入り組んでいました。とにかく広いので、見えないところは会場のモニターで車の姿を追い(あれっ、家でテレビ観てるのと変わらない???)、そして、そのモニターの前を高速で通過する車を目で追う(ホントは、首を振ってちゃんと見たかったんですが、雨がひどくて座席に固まってました...)、なんとも言い難い時間を過ごしていました。

F1 は、速さの魅力の1つだと思いますが、エンジン音の迫力は、耳というより、体に響きます。メーカーによって、音に違いがあるんですよ。あの迫力は、やはり行かないとわからなかった、とにかくいい経験をしました。(斉藤 真理)

ヨーガ

【卒業論文】

今年の初めから通い始めたインド中央政府公認のヨーガ養成講座が大詰めを迎えています。いよいよ卒業論文の準備をしなければいけない時期になりました。どんな内容を書こうかと迷った末、「ヨーガが体に良い」ということをデータで証明してみようと思いました。手軽に測ることのできる血圧でも調べてみたらそれなりに良い結果が出るであろうと。

早速、血圧計を購入し私のヨーガクラスにご参加の方々に協力をお願い。測定を始めたまでは良かったのですが...。予測していたような結果が出てこないのです。血圧はこれといった一貫した変化はなく、むしろバラバラ。頭を抱えてしまいました。このデータをどう生かしていったら良いかというのが目下の私の悩みです。

ですが、皆様のご協力でわずか2週間程で70名を超えるデータが集ったという動かぬ事実、医師をしている友人4人に相談しましたが、多忙な中、なんと全員が丁寧な返事をくれたのです。暖かく手助けをしてくださる方は数知れず。これは感涙ものです。「人に支えられている」ということを実感しました。ここで頑張らずにいつ頑張る?皆様に元気をいただき、毎日、データとにらめっこをしているところです。よ~し!卒論、頑張るぞ~!! (伊藤 玲子)

たわごと 理事長の戯言

【やっぱり勝てない?!】

10月は国際チビッ子やTopの県リーグの応援にあちこち出掛けました。

しかし...

ホント、恐ろしいほどに勝てません。私が行くと。ことごとく負けてしまいます。なので、2年生の試合など、曇っているのにサングラスをかけ、私服で行きました。本人は変装しているつもりでも、もともと2年生の子どもたちは私のことなどよく知らないため意味がありません。それでもこっそりとゴール裏の少し離れたところから見ました。

勝ちました!なので次からは行く時はバッチリ変装して、こっそり選手たちから見えないように行くことにしました。

それでも最後はどうしてもゲンをかつぎ、Topの県リーグ最終戦の日は家から一歩も出ない方法をとりました。

それが良かったのでしょうか?ご存知のとおり、おかげさまで1部リーグ残留を決めることができました。

こう書いていると、なんだか自分が疫病神になったような...

そういえばある選手たちは、試合前に円陣を組んで「内田コーチに負けるなー!」ってやってたな...(内田 佳彦)

敬称略

訂正させていただくとともに、ご本人およびご家族の皆さまに深くお詫び申し上げます。

